



医学部医学科 School of Medicine

■弘前大学問合せ先一覧

本学部案内の内容について質問等がある場合は、
下記にお問合わせください。

◎授業内容・カリキュラムについて

医学部医学科総務課学務グループ TEL 0172-39-5204

◎入学試験について

入試課 TEL 0172-39-3122・3123

◎学生寮について

学生課課外教育担当 TEL 0172-39-3107・3115

◎奨学金・授業料等免除について

学生課経済支援担当 TEL 0172-39-3117・3135

●弘前大学ホームページアドレス

<https://www.hirosaki-u.ac.jp/>

●医学部医学科ホームページアドレス

<https://www.med.hirosaki-u.ac.jp/>



弘前大学 医学部医学科 School of Medicine



弘前大学 医学部医学科で 学ぶということ。

豊かな人間性と高度な医学知識に富み、広い視野と柔軟な思考力をもって社会的役割を果たすことができる医師および医学研究者を養成するため、効果的に医学を学ぶことのできるカリキュラムのもと、人間性と社会性を高めることのできる教育を行っています。

医学は自然科学の一分野にとどまらず、人文・社会科学をも含めた総合科学です。時に困難を極めるこの世界に、私達は若い力の挑戦を求めています。

医学部長 石橋 恭之



学部長挨拶

弘前大学医学部は、1944年(昭和19年)の青森医学専門学校を母体としております。東北地方では東北大学医学部に次いで二番目に設立された歴史のある国立大学医学部で、医学科においてはこれまで7,033名の卒業生を世に送り出してきました。

弘前大学は「世界に発信し、地域と共に創造する」をモットーとしており、医学部もそれに則った形で、地域に根差した医学教育並びに研究を行ってきました。医学科の教育課程の特色は、「地域を志向した教育」、「社会の変化に対応した教育」、「リサーチマインドの育成」であります。「地域を志向した教育」として、早期臨床体験実習(1年次)、地域医療入門(2年次)、社会医学実習(3年次)、臨床実習入門(4年次)、地域(へき地)医療実習(6年次)があります。「社会の変化に対応した教育」としては、医の原則(医療倫理学)、被ばく医療学、医療安全学などがあげられ、社会のニーズに対応した授業を行っています。「リサーチマインドの育成」としては、3年次に研究室研修を行うことで研究への興味を持ってもらいます。ここでは、基礎研究者や臨床医がマンツーマンで研究の手ほどきを行います。これらの教育を通して、国際的な広い視野と柔軟な思考力を有し、郷土を愛する医師の育成を目指しています。

各講座では特色のある先端的研究が行われております。特に健康未来イノベーションセンターを中心に地域健診で得られたビッグデータを解析することで、認知症、がん、生活習慣病などの早期発見並びに予防方法の研究がなされています。また附属病院は青森県における医療の中核的役割を担っており、県内唯一の高度救命救急センターは、東北・北海道における被ばく医療の拠点として位置付けられています。

弘前は、四季折々に祭りがあり、春の弘前城桜祭り、夏のねぶた祭り、秋には弘前城の菊と紅葉祭り、そして冬には雪燈籠祭りがあります。弘前周辺にはスキー場や温泉場が複数あり、スキーや温泉も楽しめます。このように、四季を通して自然を楽しめる土地柄ですので、是非、都会の喧騒を忘れ、自然の豊かさを実感しながら、勉学並びに課外活動に勤しんで下さい。



Mission

弘前大学医学部・医学研究科ミッション

沿革

医学に関する教育・研究を行うことを目的に、官立青森医学専門学校、弘前医科大学を経て、弘前大学医学部として設置された。

- 昭和19年(1944年)官立青森医学専門学校設置
- 昭和23年(1948年)弘前医科大学設置
- 昭和24年(1949年)国立学校設置法による弘前大学設置と同時に医学部設置
- 昭和33年(1958年)大学院医学研究科設置
- 平成16年(2004年)国立大学法人に移行

特色

- 地域の活性化に貢献し、かつ世界的な視野を持った医師・研究者の育成を積極的に推進する。
- 健康増進プロジェクトにおける生活習慣病研究や地域の疾病構造の特性を踏まえた研究(がん、心疾患、脳疾患等)及び神経科学分野における研究を始めとする実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。
- 青森県の三次被ばく医療機関とし、また、県内唯一の高度救命救急センターとして、県内の被ばく医療及び高度救命救急医療を担うとともに、被ばく医療関連の教育・研究を行い、国内外でリーダーシップのとれる医師等の養成を積極的に推進する。

組織図





基礎医学講座・バイオメディカルリサーチセンター

基礎医学講座

神経解剖・細胞組織学

Neuroanatomy, Cell Biology and Histology

授業科目で「脳の科学」のうち脳の構造に関する授業と実習および顕微鏡による人体の構造の授業と実習をしています。

生体構造医科学

Anatomical Science

医学部教育の柱となる人体の構造、特に肉眼レベルでの構造や個体発生についての講義および実習をしています。

統合機能生理学

Physiology

脳における随意運動の決定・企画・構成・準備など、さまざまな脳機能について、また生体の糖代謝を調節する仕組みについて、細胞および分子レベルの研究を進めています。

ゲノム生化学

Biochemistry and Genome Biology

がんになりやすさと遺伝子多型(個人差)の関係、分化や細胞死などの誘導を研究し、予防・治療法の開発に貢献しています。

感染生体防御学

Microbiology and Immunology

細菌・ウイルス・寄生虫などの感染症の発病・病理機序と予防・治療、感染症を含む炎症性疾患に対する免疫系の研究を行っています。

社会医学

Social Medicine

地域社会で生活する住民の疾病予防や健康の維持・増進を目指す活動・研究を行っています。

法医学

Forensic Medicine

犯罪や事件、事故の疑いがある状況で亡くなった方々の死因や身元を医学的に究明する仕事をしています。

糖鎖工学

Glycotechnology

細胞の接着や情報伝達などに関与する糖鎖の研究を行い、医学、治療学への応用(糖鎖医学)を目指しています。

バイオメディカルリサーチセンター

脳神経病理学

Neuropathology

脳疾患の病理診断に加え、神経難病の病態解明を目標に形態と分子の両面から研究を進めています。

血管・炎症医学

Vascular and Inflammatory Medicine

脳血管障害(脳卒中)の予防・治療を目的に、血管系および神経系の細胞生物学的研究を行っています。

脳神経生理学

Neurophysiology

遺伝子異常を導入した動物を用い、神経疾患の発症機構の研究を行っています。

脳神経内科学

Neurology

脳神経疾患の研究と附属病院神経内科の診療を担当。今世紀は脳の世紀、患者さんを通して神経系の謎に挑む部門です。

分子生体防御学

Stress Response Science

酸化ストレス疾患との関係を分子生物学やマウス発生工学を用いて研究しています。

病態薬理学

Pharmacology

心血管系疾患の不整脈、狭心症、心不全や高血圧などの発生機序とそれらの治療薬の作用機序、脊柱後縦靱帯骨化症の成因と治療法を研究探索しています。

分子病態病理学

Pathology and Molecular Medicine

人体標本について病理診断を行うとともに、病気の原因や成り立ちを調べ、新しい治療法を探索しています。

寄附講座・共同研究講座・共創研究所

寄附講座

不整脈先進治療学

Advanced Management of Cardiac Arrhythmias

先進移植再生医学

Advanced Transplant and Regenerative Medicine

地域医療学

Community Medicine

脳卒中・血管内科学講座

Stroke and Cerebrovascular Medicine

大館・北秋田地域医療推進学

Community Healthcare Development in Odate and North Akita

地域医療支援学

Community Medical Support

地域救急医療学

Community Emergency Medicine

総合地域医療推進学

Development of Community Healthcare

生体高分子健康科学

Biopolymers and Health Science

心臓病遠隔管理システム開発学

Cardiac Remote Management System

むつ下北地域医療学

Community Healthcare Development in Mutsu and Shimokita

先進血液浄化療法学

Advanced Blood Purification Therapy

地域周術期管理医学

Perioperative Medicine for Community Healthcare

地域侵襲制御医学

Department of Perioperative Stress Management

心臓病態先進治療学

Advanced Therapeutics for Cardiovascular Diseases

共同研究講座

アクティブライフプロモーション学

Active Life Promotion Sciences

先制栄養医学

Preventive Nutrition and Laboratory Medicine

女性の健康推進医学

Women's Health Care and Promotion

野菜生命科学

Vegetable Life Science

フローラ健康科学

Microbial Flora and Health Science

Well-being 推進医科学

Department of Well-being and Health Promotion

食と健康 科学

Diet and Health Sciences

メタボロミクスイノベーション学

Metabolomics Innovation

デジタルニュートリション学

Digital Nutrition and Health Sciences

分子輸送学

Molecular Transport

データヘルス研究

Department of Data Health Science

ビューティーウェルネス学研究

Department of Beauty Wellness

健康寿命延伸学

Department of Healthy Life Expectancy Extension Science

オーラルヘルスサイエンス学

Department of Oral Health Science

ミルク栄養学研究

Department of Precision Nutrition for Dairy Foods

予防医学推進学

Department of Preventive Medicine Promotion

体内環境モデリング研究

Department of Mathematical Health Modeling

デジタルヘルスケアワークスタイル研究

Department of Work Style Promotion with Digital Healthcare

健康長寿デザイン

Department of Healthy Longevity Design

表情・体・心連関科学 (いい表情と体・心のつながり研究)

Department of Science for Connection between Appearance/Body and Mind

健康ライフサイエンス研究

Department of Health Life Science Research

移動体験・Well-being 研究

Department of Mobility Experiences and Well-being Research

ヘルスケア AI システム学

Department of Healthcare AI Systems

先端ファイトケミカル健康学講座

Department of Advanced Phytochemical Health Research

ウェルネスフードイノベーション講座 (おいしくたのしくすこやかに研究)

Department of Wellness Food Innovation



臨床医学講座

消化器血液免疫内科学

Gastroenterology, Hematology and Clinical Immunology

消化器疾患・血液疾患・膠原病の診療とヘリコバクター感染・炎症性腸疾患・血小板機能などの研究を行っています。

循環器腎臓内科学

Cardiology and Nephrology

心疾患、腎臓病の診療と研究を行っています。不整脈・心筋梗塞・腎炎・腎不全など生命にかかわる重要な疾患を担当しています。救急医療にも力を入れています。

呼吸器内科学

Respiratory Medicine

慢性肺疾患や肺癌など呼吸器疾患の診療と研究を行っています。高齢化社会においては、重要な疾患を担当しています。

内分泌代謝内科学

Endocrinology and Metabolism

下垂体、甲状腺、副腎など内分泌腺の疾患、また生活習慣病として社会問題化している糖尿病や高脂血症について、専門的診療・研究を行っています。

腫瘍内科学

Medical Oncology

日本人の死因の一位はがんです。様々な悪性腫瘍の内科的治療を担当し、青森県のがん死亡者の減少を目指して、教育・診療・研究に励んでいます。

神経精神医学

Neuropsychiatry

私たちは「ここで治らなければ他でも治らない」という意気込みで、診療・教育・研究に従事しています。

小児科学

Pediatrics

優秀な専門医が各々の専門診療・教育・研究を活発に展開し、青森県のこども病院の役割を担っています。

胸部心臓血管外科学

Thoracic and Cardiovascular Surgery

心臓血管外科と呼吸器外科を中心とした外科の臨床と研究を行っています。患者さん中心の医療を掲げ、手術症例数は多く、周辺病院から紹介された困難な手術を手がけています。

消化器外科学

Gastroenterological Surgery

消化器・甲状腺・乳腺疾患に対し手術を中心とした診療技術の鍛錬・開発を行っています。

整形外科

Orthopaedic Surgery

整形外科への社会的ニーズの増大に対して、最先端医療にて対応しています。

リハビリテーション医学

Rehabilitation Medicine

運動などの機能障害からの回復を目指すとともに、予防医学的アプローチによる診療と研究を行い、高齢化社会への貢献を目指しています。

皮膚科学

Dermatology

先天性皮膚疾患の遺伝子診療、皮膚悪性腫瘍に対する先駆的な検査、治療法の開発に取り組んでいます。

泌尿器科学

Urology

前立腺癌、腎癌、膀胱癌などの悪性腫瘍、腎不全、腎移植、排尿障害などの診断から治療までをトータルマネジメントしています。

眼科学

Ophthalmology

患者さんの診療に加え、色々な眼の病気の新しい治療法の研究・開発を行っています。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery

21世紀は Quality of Life にとって重要な感覚器(聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚)を取り扱う耳鼻咽喉科の世紀です。

放射線腫瘍学

Radiation Oncology

全身のがんに対応できる放射線治療専門医の育成と難治病に対する新たな治療法の研究・開発に取り組んでいます。

放射線診断学

Radiology

最先端医療機器による画像診断と IVR を通じて、社会に貢献できる画像診断専門医の育成と研究活動を行っています。

産科婦人科学

Obstetrics and Gynecology

周産期医学、腫瘍学、生殖医学から構成され、内科、外科、女性科、新生児科を総合した医学です。

麻酔科学

Anesthesiology

臨床麻酔、集中治療、陣痛外来、終末期医療を通じて全人的医療を目指しています。

脳神経外科学

Neurosurgery

「医療は地域に、医学は世界に」を胸に、脳神経外科最先端医療の開発とその地域医療への提供を実践しています。

歯科口腔外科学

Dentistry and Oral Surgery

口腔顎顔面の構造と機能を正しく理解し、医師として最低限必要な顎口腔疾患の診断と治療に関する事項を担当しています。

形成外科学

Plastic and Reconstructive Surgery

乳房再建や外傷後の傷跡を目立たなくするなど、患者さんの生活の質を高める治療を行っています。

救急災害・総合診療医学

Emergency, Disaster and General Medicine

救急災害時の医療及び総合診療に関する研究・教育を行い、地域医療の要になることを目指しています。

臨床検査医学

Clinical Laboratory Medicine

主に新たな検査マーカーや検査法の開発およびその評価について検査部スタッフとともに取り組んでいます。

人体病理学・病理診断学

Anatomic Pathology

生検や手術検体の組織診断や細胞診に遺伝子等の分子解析も加えた総合的な病理診断を行っています。また新たな技術を用いて腫瘍を解析し、その成り立ちや進展を研究しています。

小児外科学

Pediatric Surgery

出生後すぐ手術をしなければ死亡する先天性異常や小児がんなど、外科的治療を必要とする子どもの病気を扱います。

医学医療情報学

Medical Informatics

病院情報システムの開発・運用と診療録管理を行い、診療の充実を図ります。病院管理学の学部講義もを行っています。

薬剤学

Pharmaceutical Science

適正な薬物療法を支援するために、医薬品の管理、供給、情報の提供および患者さんへの服薬指導を行っています。

輸血・再生医学

Transfusion and Cell Therapy Medicine

ヒトからヒトへの命を繋ぐ、安全で適正な輸血・再生医療の提供に取り組んでいます。

医療安全学

Patient Safety

医療事故が起きる背景や医療事故を防ぐためのシステム作り、チーム医療を推進し安全で質の高い医療を提供するための方策を学びます。

医療倫理学

Medical Ethics

倫理審査などを通じて、社会的にも関心の高い医療および臨床研究における倫理の問題に取り組んでいます。

医師を志す者が持つべき覚悟と責任 学ぶほど医学への関心が高まる

医学部医学科2年

河田 晃和 さん

●秋田県立大館鳳鳴高等学校

人体を扱う解剖学実習は医学部医学科ならではの特別な授業です。実習に臨むには事前の座学が欠かせません。しっかりと知識を身につけていなければ実習本番で戸惑うばかりか、ご献体に対して失礼にもなりかねないからです。本学では2年次の前期に行うのですが、「解剖を経験した者は医師になる道しか残されていない」という教授の言葉は強く心に残っています。解剖を通してマクロな視点で人体の構造を学べたということはもちろん、ご献体をしてくださった方の崇高な思いにも触れることができました。正直なところ1年次までどこか漠然と医師を目指していましたが、解剖学実習を通して覚悟が定まり、将来への意識が一層現実のものとなりました。

医学に関連したサークルがあるのも特徴的で、私は漢方医学研究会に属して東洋医学の概念や漢方薬の効能について学んでいます。東洋医学には脈診という脈拍から身体の状態を診る方法がありますが、中国出身の留学生からやり方を教えてもらったことは印象的でした。その他にも外部講師による講義では、臨床での使われ方など専門的な知識を得ることもできます。西洋医学的な知見に加えて東洋医学的な視点を持っていることは診察の幅を広げてくれて、医師として現場に出た際にきっと生きてくると考えています。



思いもよらない経験と出会いで 自分の可能性が拓ける場所

医学部医学科4年

古川 陽南子 さん

●長野県松本深志高等学校

発展途上国の現状について、よく話をしてくれた塾の先生の影響から「医療で国際的な援助ができれば」という気持ちが芽生え、医学部へ進みました。国際協力への関心は今も変わりません。ただ、医学について知識が深まるほど他分野への興味が生まれたり、医療留学をした友人の話などを聞いていると、私には様々な選択肢や可能性があるんだと気付かされます。たくさんの経験や出会いを通じて、自分の価値観が変わっていくことに楽しさを感じています。

数ある授業の中で思い出深いのが3年次の研究室研修です。私は弘前大学の研究で発見された、前立腺がんの新たなバイオマーカーに関する研究を行いました。実験では先生が発見のために活用した貴重な試料を使わせていただき、丁寧な指導のおかげで研究結果を報告するプレゼンテーションでは優秀発表賞をいただくことができました。研究と臨床の結びつきを肌で感じることもできたと共に、自信につながる大きな経験になったと感じています。

4年次ではCBTとOSCEという進級をかけた試験があります。その試験をクリアできればよいは臨床実習。実習を経験して考えが変わるかもしれないし、医療との関わり方は模索中ですが、他者への貢献と自分の幸せを両立した、納得できる道へ進みたいですね。



地域の健康を支える大学で学び 患者と心を通わせる医療人を目指す

医学部医学科3年

小倉 有貴 さん

●青森県立青森高等学校

実習や科目の特色性を重視した大学を調べていたところ、辿り着いたのが弘前大学が実施する「岩木健康増進プロジェクト」という地域住民の健康状態等を調べる大規模な調査です。このプロジェクトへの参加は3年次の必修となっており、私はBMIや体脂肪率の測定を担当しました。参加してみると思っていた以上に健康に対して積極的な人の割合が高く、病気を見つけるというより、健康に気をつけているという地域全体の健康意識の高さを目の当たりにしました。毎年の楽しみにしている方も多く、20年続いているこの取り組みは本学と地域の関わり方の深さを表す象徴的な部分ではないでしょうか。

知識は大前提としたうえで、医学部で身につけるべきことはコミュニケーション能力だと思っています。私自身、小児喘息で長期間にわたり通院をしていました。病院は苦手でしたが、先生は子どもにもわかるように病状を説明してくれたり、学校のことを気にかけてくれたりと、治療だけでなく心を楽にしてくれた経験から、私は医師を志すようになりました。今でもその頃の担当医が私の目指す医療人です。医学に精通した人間ではなく、学んだ知識を医療として提供し、「この先生になら話せる」、「診てもらえて良かった」と思ってもらえるような、心の通う関係性を築ける医師になりたいですね。



机上では得られない経験が 自らを成長させてくれる

医学部医学科5年

岩崎 裕太郎 さん

●青森県立青森高等学校

5年次になると診療参加型臨床実習が始まり、私も今は実習の日々を過ごしています。4年次までは学内での授業が多く、本格的な実習は限られていましたが、5年次からは毎日病院へ通い、先生方との関わりも増えました。何より、初めて患者さんと直接向き合うことになるため、学びの場が一気に現場中心へと変わります。勉強の仕方内容も生活も、それまでの日常とは大きく異なります。

実習中は患者さんの病態や治療方針について先生方と話す場面が多いです。その中で各科の先生方から「画像所見などのデータを参照するのも大事だけど、最も重要なのは患者さんの話を聞いて診ること」というアドバイスをいただきます。4年次までは患者さんと接する機会が少なかったのですが、これは5年次になってからの大きな気づきでした。実際に、患者さんから得た情報が今後の治療方針を左右することもあるので、このような助言は非常に参考になっています。

私はテニスサークルと写真部に所属しています。実習が忙しかったことで頻度は減りましたが、なるべく顔を出すようにしています。同期や先輩後輩、様々な年代の人と関係性を深められるのは、とても魅力的なこと。勉強からは得られない経験も人生を豊かにしてくれると思うので、学生生活を思いっきり楽しんでください。





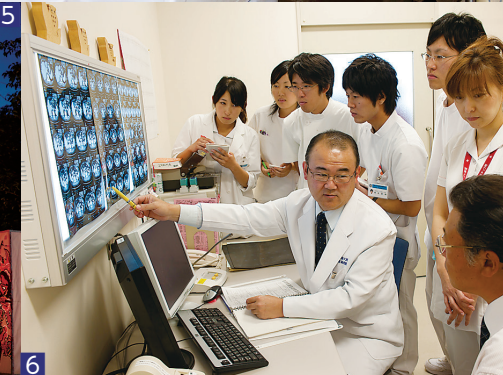
1



4



5



6



9

Campus Photo Gallery

実習や卒業研修に励む学生たち

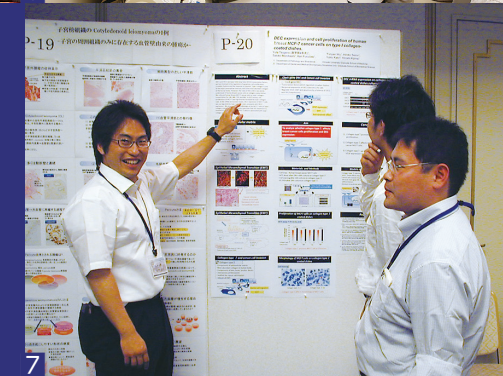


2



3

- 1 整形外科手術(人工関節置換術)
- 2 病理診断カンファレンス
- 3 整形外科手術(人工関節置換術)
- 4 人体病理学・病理診断学講座
- 5 ねぶた祭り(8月第1週)
弘前大学は毎年出陣(参加)
- 6 臨床実習
附属病院外科外来
- 7 研究室研修の一環として全国学会において英語で発表
- 8 臨床実習
附属病院内科外来
- 9 病理生命科学講座
手術切除材料検索のための写真撮影
- 10 ベスト研修医賞
医学部長と附属病院院長より毎年表彰



7



8



10

医学科カリキュラム (令和7年4月1日現在)

弘前大学医学科の教育課程の特徴は、診療参加型教育、地域医療教育、少人数教育にあります。診療参加型としては、早期臨床体験実習(1年次)、臨床実習(クリニカルクラークシップ)(5・6年次)が挙げられます。1年次の早期臨床体験実習は附属病院と学外施設(障害者支援施設、老人ホームなど)で行っています。さらに、6年次の臨床実習では、学外を含む4病院(診療科)を体験します。地域医療教育としては、地域医療入門(2年次)、社会医学実習(3年次)があり、6年次の臨床実習では4週間の地域(へき地)医療実習を義務付けています。少人数教育としては、基礎人体科学演習(1年次)、研究室研修(3年次)、PBL(Problem-based Learning)(4年次)を導入し、研究室研修発表会では全員が発表と質疑応答を行います。さらに、医師としての役割や医療倫理に関しては、医の原則(1年次)、医療安全学(4年次)の授業を実施し

ています。
これらの授業の展開により、入学後早期からの医療現場の体験、地域医療を含む体験型臨床実習の実施、地域社会との連携による医療関連教育の実践を行い、職業観の涵養や社会に参画する意欲・態度の形成、専門的職業人(医師)としての役割、そして郷土愛を身に付けます。

卒業後は医師国家試験を経て、2年間の臨床研修(初期研修)を行います。弘前大学医学部附属病院では種々の研修プログラムを用意し、研修医のニーズに応えています。また、大学院に入学して研究をしながら引き続き臨床経験を積むことができます。

更に、専門医をめざし臨床研修に特化したトレーニングを続けることも可能です。

卒前・卒後の一貫教育で将来を担う医師養成

- 医学・医療は日進月歩で、医師は生涯学習により、常に己を高めながら、社会に貢献することが求められます。
- このため、弘前大学医学部医学科では、学部教育に加え、卒業後も一環とした教育を目指しています。
- 卒後2年間の臨床研修(初期研修)は、医師として必修です(厚生労働省で義務化)。
- その後、専門医研修3～4年程度(後期研修)を経て専門医取得が可能です。
なお、専門医研修プログラムは、大学病院等(基幹研修施設)と関連研修施設等が、指導体制を構築し、研修の質を担保することが求められています。
- 研究科学)は進歩に不可欠
大学院での科学的思考・実践 → 学位(博士)取得

専門医 & 学位(博士) = 車の両輪

専門医・学位取得を目指す医学科卒業後の進路



- モデルケースです。
- 大学卒業後、2年間の臨床研修(初期研修)は医師として必修
- 専門医取得には、臨床研修後3年間程度の専門医研修が必要
- 博士(医学)取得には、4年間の大学院在学が必要



関連施設紹介 | Related facilities introduction



医学部附属病院

学生の臨床実習や医学研究の場として重要な機能を持ち、青森県の医療の中心的な役割を担っています。通常の診療のみならず、国立大学附属病院卒後臨床研修共通カリキュラムに沿った若手医師の臨床研修の実施、特定機能病院としての高度な医療の提供・開発・評価及び研修も行っています。

高度救命救急センター

救命救急センターの中でも各県に一カ所指定される高度救命救急センターです。緊急患者に対しても24時間365日対応可能な施設です。また、外来棟屋上のヘリポートから青森県各地の患者を受け入れる体制を持ち、青森県の危機管理の一翼を担うための「緊急被ばく医療」の体制も整備を進めています。本学では、高度な医療とともに将来、青森県の救急医療を担う若い救急医を育成することもその責務だと考えています。



弘前大学医学部コミュニケーションセンター

医学部創立50周年を記念し、医学部と一般市民及び地域医師等との交流を深める場として設置されました。保健及び医療に関する知識の普及、最新の医学知識と医療技術の研修等を行うとともに生涯学習の一層の充実を図ることを目的とし、一般市民対象の生涯学習及び一般医師等の医学研修会・検討会等に使用されています。



医学研究科附属バイオメディカルリサーチセンター

未病医学・脳科学を中心とした医学分野の学術研究を行うこと、並びに認知症や生活習慣病の病態及び発症機構を解明し、新たな予防法・治療法の開発に係る体制を構築することを目的として、医学研究科の附属脳神経血管病態研究施設、附属高度先進医学研究センター及び基礎講座の一部を統廃合し、令和6年1月に新たに附属バイオメディカルリサーチセンターが設置されました。

本センターには脳神経病理学、血管・炎症医学、脳神経生理学、脳神経内科学、分子生体防御学、病態薬理学、分子病態病理学の7講座が編成され、他学部やCOI-NEXT参画機関の共同研究講座とも連携し当該分野の発展を目指すとともに、弘前大学の「地域中核・特色のある研究大学」構想の学術面において先導的な役割を果たしています。



医学研究科附属健康未来イノベーションセンター

令和2年8月に設置され、産学官金民連携の下、子どもから高齢者までの幅広い世代における社会医学的・スポーツ医科学的研究などの学際的な研究を行っています。国民の体やこころの健康増進に関する提言、各種講演会・研究会等の開催、共同研究や国際交流等による指導的人材の育成を通じ地域の活性化に資すること、また我が国における医学的観点からの体やこころの健康・支援対策の社会実装モデルを提案することを目的としています。さらに、共同研究講座大手企業：花王・ライオン・カゴメ・クラシエ・サントリー・ファンケル・味の素・大正製薬 等）、それとコラボする基礎講座、臨床講座が関わり、地域社会や他大学研究組織とも接点を持ちながら研究を行っています。



奨学金について | Scholarship

学業・人物ともに優秀かつ健康であって、経済的理由により修学が困難と認められる者に対し、本人の申請に基づき、選考の上、奨学金が貸与されます。

青森県国民健康保険団体連合会

将来弘前大学大学院医学研究科・附属病院や青森県内の自治体医療機関で働く希望を持っている人達に修学に必要な資金が援助されます。

(令和7年度参考)

入学区分	支援内容	支援対象者	資金返還免除の条件	募集定員
通常入学	【特別枠】 入学料 授業料（毎年度） 奨学金（毎月） [月10万円・入学月のみ20万円]	総合型選抜Ⅱ 「青森県内枠」・「北海道・東北枠」 一般選抜 「青森県定着枠」	卒業後、青森県が設置している「青森地域医療支援センター」に登録し、支援期間の1.5倍の年数、指定医療機関に医師として勤務すること。	5名
	【一般枠】 入学料 授業料（毎年度）	同上	卒業後、青森県が設置している「青森地域医療支援センター」に登録し、支援期間の1.5倍の年数、指定医療機関に医師として勤務すること。	2年次編入を含め 57名

公益信託黄傳明・若子記念医学生奨学金基金

- 1) 主旨：将来は「ふるさと」の医療に従事したいとの志をもつ医師の育成支援
- 2) 応募資格：次の事項のすべてに該当する4年次の学生
 - (1) 青森県所在の大学医学部に在学する我が国または台湾出身の者
 - (2) 学業、人物ともに優秀であり、かつ健康である者
 - (3) 学費の支払いが困難である者
 - (4) 将来は青森県または台湾で臨床医療に従事することを希望する者
- 3) 募集人員：4年次3名
- 4) 金額・納付期間：卒業まで月額5万円で、返済は不要

日本学生支援機構

日本学生支援機構が募集する奨学金制度で、高校在学中に申し込む〔予約採用〕と大学入学後に申し込む〔在学採用〕があります。

〔在学採用〕の募集は春と秋で、弘前大学では4月の入学式以降に実施する説明会等で関係書類を配布しています。

「高等教育の修学支援新制度」については、弘前大学ホームページ及び日本学生支援機構ホームページ等を確認して下さい。

(令和7年度参考)

区分	第一種（無利子）		第二種（有利子／在学中は無利子）
貸与月額	自宅通学者	20,000 円または 30,000 円または 45,000 円	20,000 円から 120,000 円の間で 10,000 円単位で額を選択
	自宅外通学者	20,000 円または 30,000 円または 40,000 円または 51,000 円	
入学時特別増額貸与	10 万円、20 万円、30 万円、40 万円、50 万円から選択（有利子）。対象は第一種奨学金または第二種奨学金の貸与を 4 月から受ける者で、初回振込時に一時金として貸与される。		
貸与期間	最短修業年限の範囲内		
返還方法	卒業後 20 年を限度として定められた期間内に返還		

- 日本学生支援機構の他にも、地方公共団体や民間団体等の奨学金制度があり、大学の推薦によるものと直接本人の申請によるものがあります。
- 貸与又は給付される奨学金は、月額20,000円～50,000円程度です。なお、団体等によっては、日本学生支援機構との重複採用を認めないところがあります。

サークル | Circle

体育系

陸上競技部
準硬式野球部
硬式庭球部(男子)
硬式庭球部(女子)
ソフトテニス部
水泳部
サッカー部
ラグビー部
バレーボール部(男子)
バレーボール部(女子)
バスケットボール部(男子)
バスケットボール部(女子)
バドミントン部
卓球部

剣道部

競技スキー部
ゴルフ部
弓道部
空手道部
山岳部
自転車競技部
柔道部
硬式テニスサークルKIDS
FCバルサルバ
バスケットボール Air Walk
軽運動サークル LEC
弘前スラックラインサークル
弘前大学クライミングサークル CLIRO
バドミントンサークル ラブオール
弘前大学 ブラジリアン柔術

文化系

写真部
茶道部
漢方医学研究会
国際医療研究会
医学部管弦楽団
Medical Cool Quartet
救急救命サークル Q'est
雪同好会『雪りんご』
天文サークルSpica
弘前医ゼミに参加する会 HIZSK
医学部クイズ研究会
地域医療サークル ココプラ
弘前大学医学部 アントレ部
アスライフ (USL)



競技スキー部



管弦楽団



Medical Cool Quartet



Q'est



剣道部



ゴルフ部



ラグビー部



空手道部



自転車競技部



硬式庭球部

国際交流 | International exchange

弘前大学は、令和6年10月現在、世界22の国・地域の57大学等と大学間交流協定を結んでおり、その他、医学部単独では4カ国4学部と学部間協定を結んでいます。これらの内、台湾の馬偕醫學院とは交換学生の協定を結び臨床実習の単位取得も可能な研修の機会を提供しています。

また大学間交流とは別に、三沢米空軍病院においても同様の研修（エクスターン）が可能で、こちらも毎年4名程度の学生がお世話になっています。

これらはいずれも大好評で、毎年多数の学生が応募していますが、医学研究科国際交流研究委員会が様々な観点から人選してきました。学生のうちに海外の医学教育の一端に触れることができる機会は、いろいろな意味で大変貴重であると考えられ、また、実際にこれらの研修を経験した学生達は大いに満足しています。



著名研究者による 特別講義 | Special lecture

ヘリコバクター・ピロリの発見と消化性潰瘍との関係性を明らかにし、2005年のノーベル生理学・医学賞を受賞したオーストラリアのWarren博士(上段)や、ゲル電気泳動法の開発と遺伝子改変動物の作製・遺伝子標的法の技術を確立し2007年のノーベル生理学・医学賞を受賞したアメリカのSmithies博士(下段)による特別講演が行われました。

